

男子シングルス 及川が連覇

狙うは日本代表

全日本大学総合卓球選手権(個人の部)

全日本大学総合卓球選手権(個人の部)が10月24日から27日まで、京都府の島津アリーナ京都で行われ、男子シングルスで及川瑞基(商4・青森山田高)が連覇を達成した。

第1シードにエントリーされた及川は、「シードだという気持ちは一切取り除いて試合に臨んだ」。プレッシャーを感じさせないプレーで、順

当に勝ち進んだ。愛工大(松山祐季選手との準決勝)と振り返るように、第1ゲームこそ落としたものの、その後は4ゲームを連取し、2年連続2度目の優勝を果たした。

今大会の結果、12月にされる2020世界卓球選手権の国内最終選考の出場権を獲得した。

池村友輔・文2 写真

日本代表入りに向け、「自分本来のプレーができればおのずと結果も出てくる」と思っている。日の丸を背負って戦いたい」と世界の舞台を見据える。

なお、シングルスでは三部航平(商4・青森山田高)がベスト8。ダブルスでは及川・三部ペアがベスト8入りした。

池村友輔・文2 写真

順調に勝ち進み、準決勝では秋季リーグ戦で黒星を喫した早大の鎌田那美・金子碧衣ペアにストレート勝ち。決勝は青学大の熊中理子・三條裕紀ペアに力及ばず敗れた。

安藤みなみさん(平31商)とのペアで2017、18年大会を制し、3年連続で決勝の舞台に立った枝松は「安藤さんに支えてもらったように、フォロワーの言葉をかけるなど、木村との連携を大切にしたい」と振り返った。

一方の木村は「準優勝は枝松さんのおかげ。結果を残すことができてうれしい」と笑顔だった。

(池村)

吉田瑠実選手ペアに惜敗(1-2)し、ベスト4進出はならなかった。しかし、谷澤主将が「優勝が目標だったので悔しさは残るが、最後まで石原と全力で戦うことができ、後悔はない」と語り、石原も「悔しいが、これまでやってきたことは全部出すことができた。何よりも楽しくプレーできた」と振り返った。

谷澤主将は「学生として最後の大会となる全日本総合選手権(11月25日〜12月1日)に向け、頑張りたい」と話した。

(大竹実穂・文2 写真)



連覇を果たした及川(決勝戦)

全日本学生馬術大会 10月29日〜11月5日、兵庫県・三木ホースランドパーク

馬場馬術、障害馬術、総合馬術の3種目が行われた今大会。専大は、障害馬術は12位と振るわなかったものの、馬場馬術で3位、総合馬術で2位に入賞。3種目総合で昨年に続き2位となった。

鈴木良明(経営4・上鶴間高)が「一人一人が練習の成果を発揮することができた」と話すと、深谷光明主将(商4・安城農林高)は「個人的には満足いく演技でなかったが、3種目総合を2位で終わることができ、



軽やかに馬を操る鈴木

馬場馬術、障害馬術、総合馬術の3種目が行われた今大会。専大は、障害馬術は12位と振るわなかったものの、馬場馬術で3位、総合馬術で2位に入賞。3種目総合で昨年に続き2位となった。

鈴木良明(経営4・上鶴間高)が「一人一人が練習の成果を発揮することができた」と話すと、深谷光明主将(商4・安城農林高)は「個人的には満足いく演技でなかったが、3種目総合を2位で終わることができ、

3種目総合2年連続2位

全日本学生馬術大会 10月29日〜11月5日、兵庫県・三木ホースランドパーク

馬場馬術、障害馬術、総合馬術の3種目が行われた今大会。専大は、障害馬術は12位と振るわなかったものの、馬場馬術で3位、総合馬術で2位に入賞。3種目総合で昨年に続き2位となった。

鈴木良明(経営4・上鶴間高)が「一人一人が練習の成果を発揮することができた」と話すと、深谷光明主将(商4・安城農林高)は「個人的には満足いく演技でなかったが、3種目総合を2位で終わることができ、

悲願の1部復帰

専大は2部Aブロックを4戦全勝の1位で終え、同Bブロック1位の明星大、1部5位の明大との3校による入れ替え戦に臨んだ。計80射(4人×20射)を行い、53中1部昇格を勝ち取った弓道部女子のメンバー(撮影・内田裕士(法3))

専大は2部Aブロックを4戦全勝の1位で終え、同Bブロック1位の明星大、1部5位の明大との3校による入れ替え戦に臨んだ。計80射(4人×20射)を行い、53中1部昇格を勝ち取った弓道部女子のメンバー(撮影・内田裕士(法3))

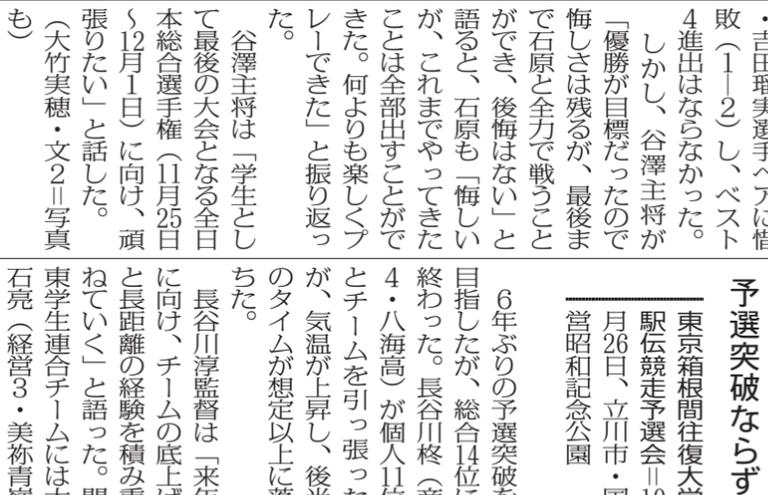
予選突破ならず

東京箱根間往復大学駅伝競走予選会10月26日、立川市・国営昭和記念公園

6年ぶりの予選突破を目指したが、総合14位に終わった。長谷川柊(商4・八海高)が個人11位とチームを引っ張ったが、気温が上昇し、後半のタイムが想定以上に落ちた。

長谷川淳監督は「来年に向け、チームの底上げと長距離の経験を積み重ねていく」と話した。関東学生連合チームには大石亮(経営3・美祿青嶺高)が選出された。

(内田)



コースを狙ったサーブを放つ石原。左が谷澤主将

逆転で1部残留

秋季関東大学バレーボールリーグ戦1、2部入れ替え戦11月2日、世田谷区・駒大玉川キャンパス 体育館

リーグ戦を2勝9敗の11位で終え、入れ替え戦に回った専大。2部2位の慶大に2セットを連取されたが、久保裕太(商3・都城工高)や藤中颯志(経営2・宇部商高)の力強いスパイクがチームに勢いをもち、3-2の逆転勝利で1部残留を決めた。吉岡達仁監督は「我慢の展開だったが、負けられない試合を勝ち切った選手たちをたたえたい」と話した。

(白鳥順也・経営3)